

～はじめに～

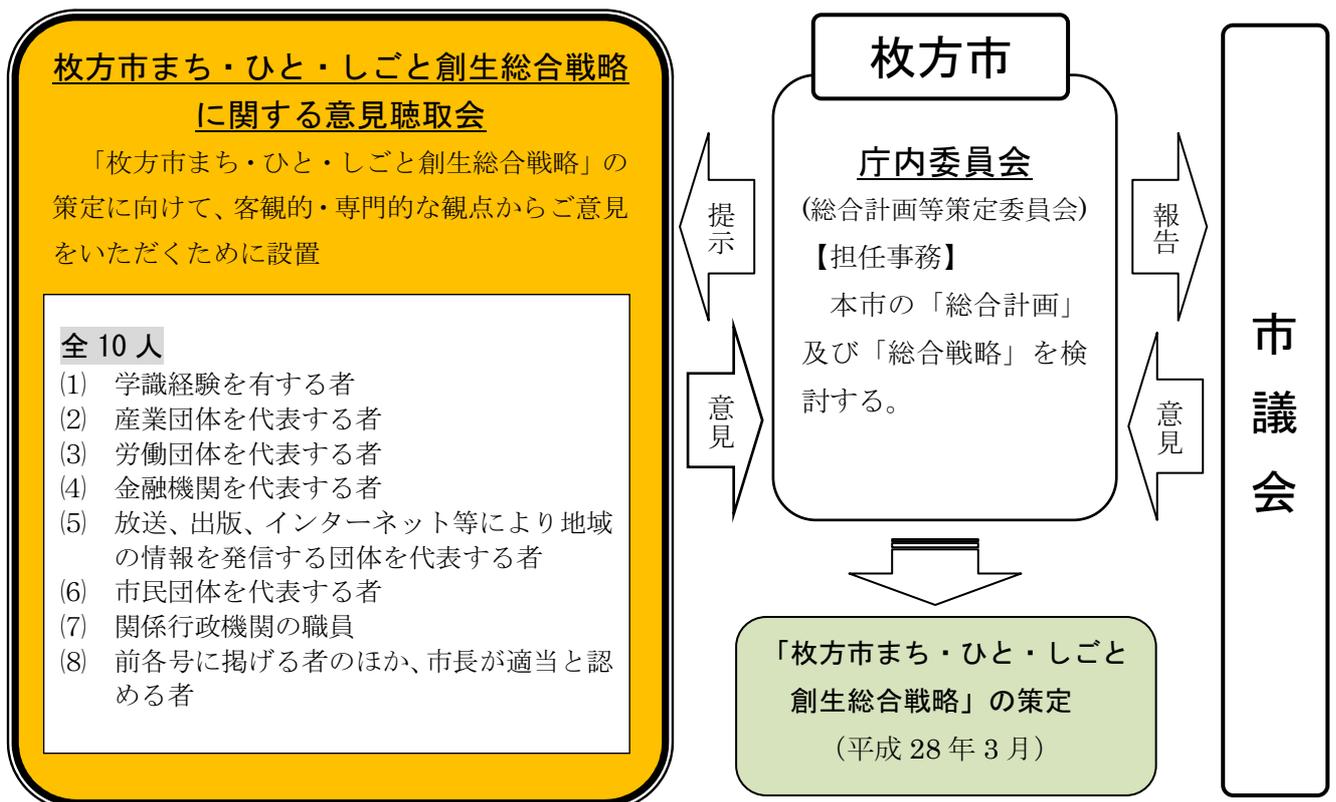
1. 策定の経過・趣旨

少子高齢化の進展への対応や、東京圏への人口集中の是正のため、国は、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）を制定し、平成 26 年 12 月 27 日に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をそれぞれ閣議決定しました。また、同法第 10 条においては、市町村においても、国や都道府県の総合戦略を勘案し、地域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生の基本的な計画を定める努力義務が明記されています。

こうしたことから、本市においても、人口減少への対応を図るため、本市の人口の現状や将来展望を示した「人口ビジョン」と、ビジョンで示す将来展望を踏まえ、平成 31 年度までの 5 年間で集中的に行っていく施策をまとめた「総合戦略」で構成する「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、取り組みを進めるものです。

2. 策定体制

「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会」（学識経験者や産業団体・市民団体等の代表者など全 10 名で構成）を設置し、客観的・専門的な見地からの意見を踏まえるとともに、市議会からの意見をいただきながら、策定しました。



3. 戦略の改訂

これまでの定住促進・人口誘導対策に係る取り組みや、平成 29 年度の施策評価の結果を踏まえ、「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をより実行性のあるものとし、総合戦略が目指す方向性や基本目標を実現していくため、平成 30 年 3 月に改訂します。

第1章 人口ビジョン

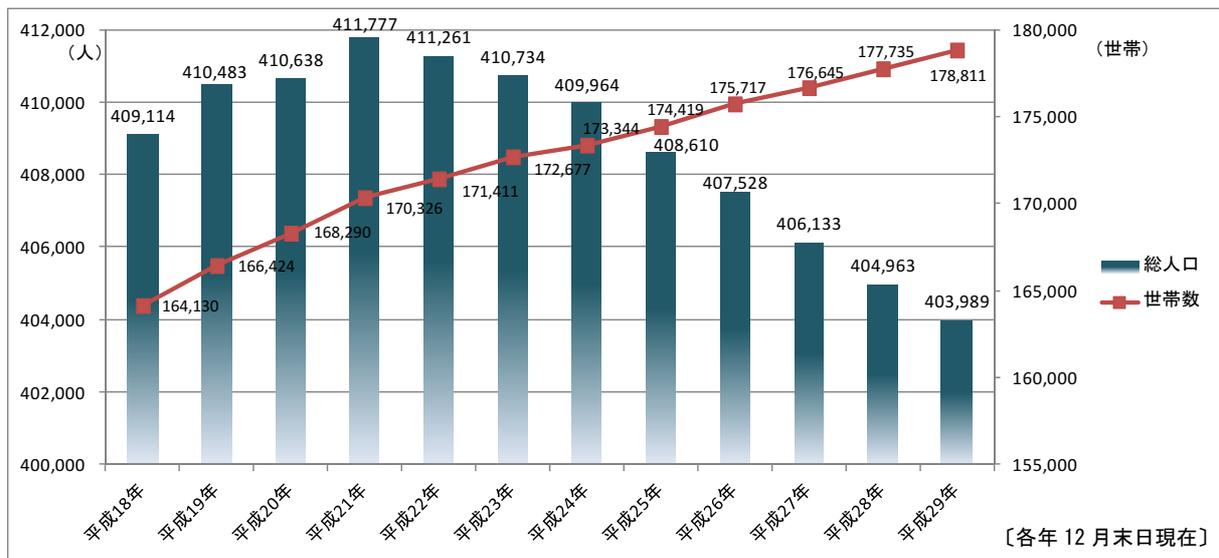
1. 枚方市人口の現状

(1) 総人口・世帯数・年齢3区分別人口割合の推移

本市の総人口については、平成21年まで増加傾向が続き、一時41万人を超えましたが、平成21年をピークに減少傾向となり、平成29年12月末日現在では、403,989人となっています。

一方で、世帯数については、平成29年12月末日現在、178,811世帯で、増加傾向が続いていることから、1世帯あたり人員は減少傾向で、家族の少人数化が進んでいることがうかがえます。

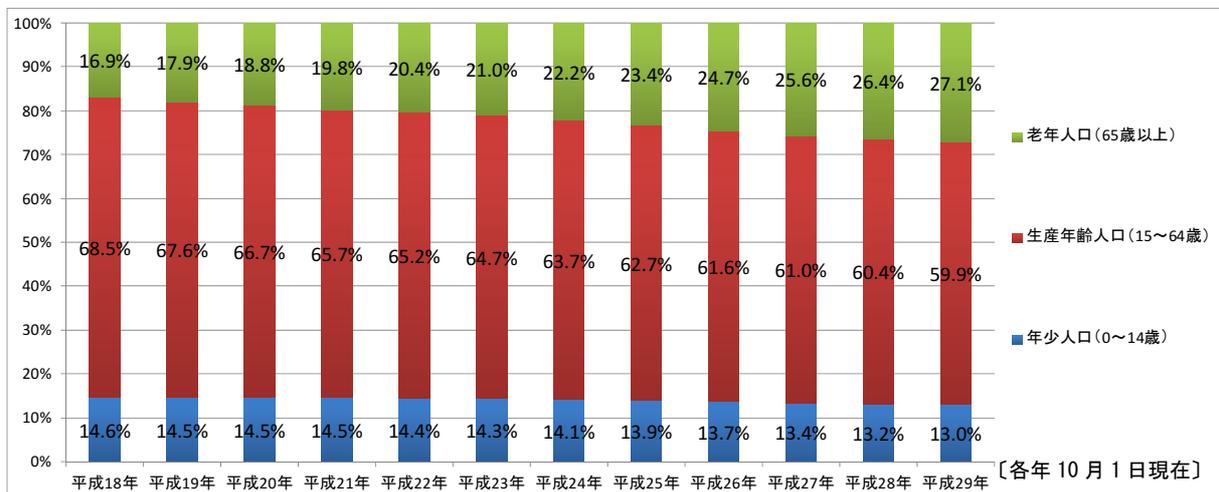
図 総人口・世帯数の推移



出典：住民基本台帳報告書

年齢3区分別人口の割合については、平成29年10月1日現在では、老年人口（65歳以上）が27.1%、生産年齢人口（15～64歳）が59.9%、年少人口（0～14歳）が13.0%となっており、生産年齢人口（平成18年比8.6ポイント減）と年少人口（平成18年比1.6ポイント減）は減少傾向にあるのに対し、老年人口（平成18年比10.2ポイント増）は増加傾向にあり、少子高齢化が進行しています。

図 年齢3区分別人口割合の推移



出典：枚方市統計書

(2) 地域別人口の推移

地域別の人口については、市域を主要な河川や幹線道路によって7つの地域(北部地域、中部地域、南西部地域、中東部地域、中南部地域、南部地域、東部地域)に区分した場合、平成20年から平成29年までの推移を見ると、南西部地域を除いて減少しており、北部地域で約2,500人の減少がみられます。一方、南西部地域では約1,345人の増加となっています。

図 地域区分図

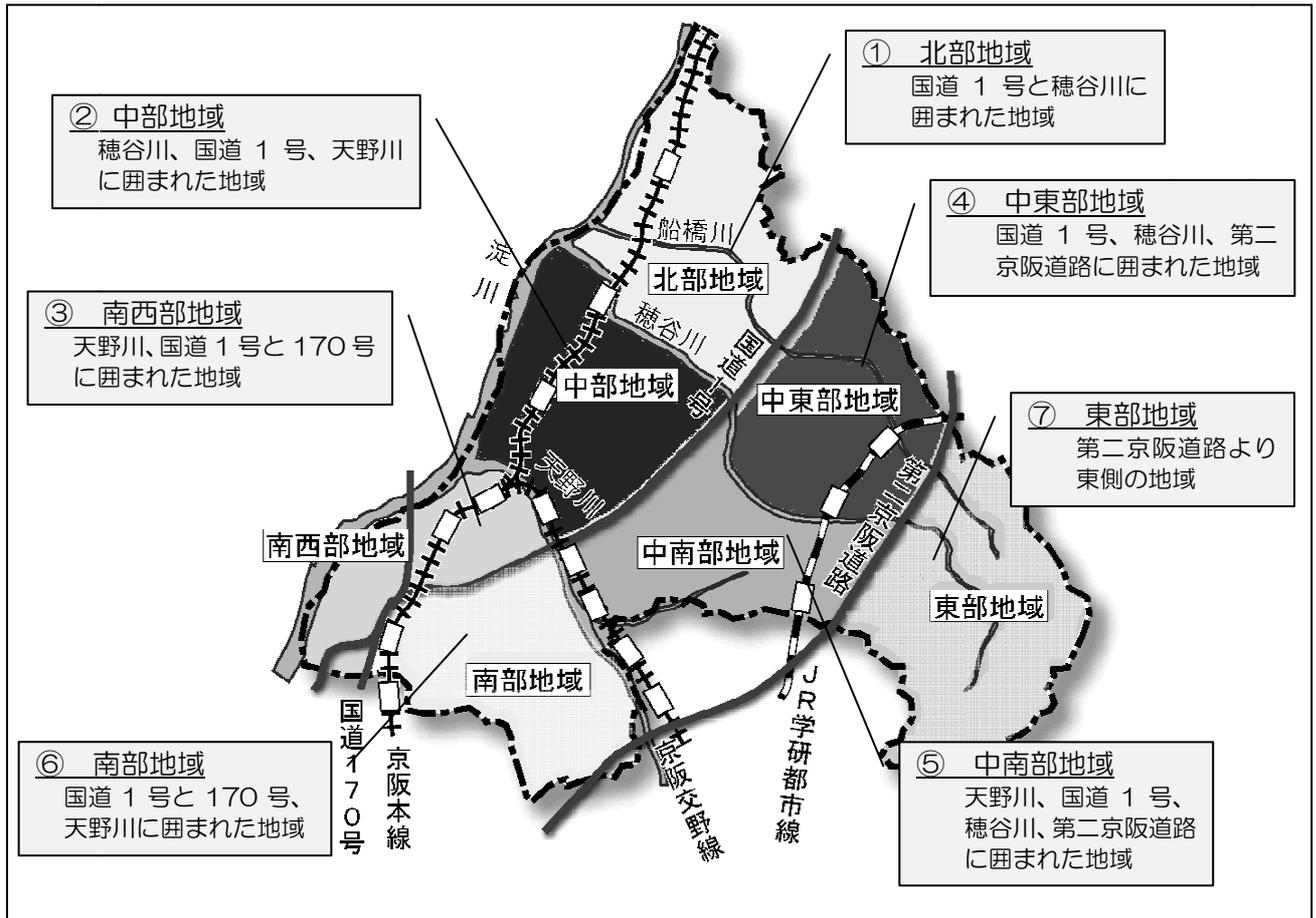
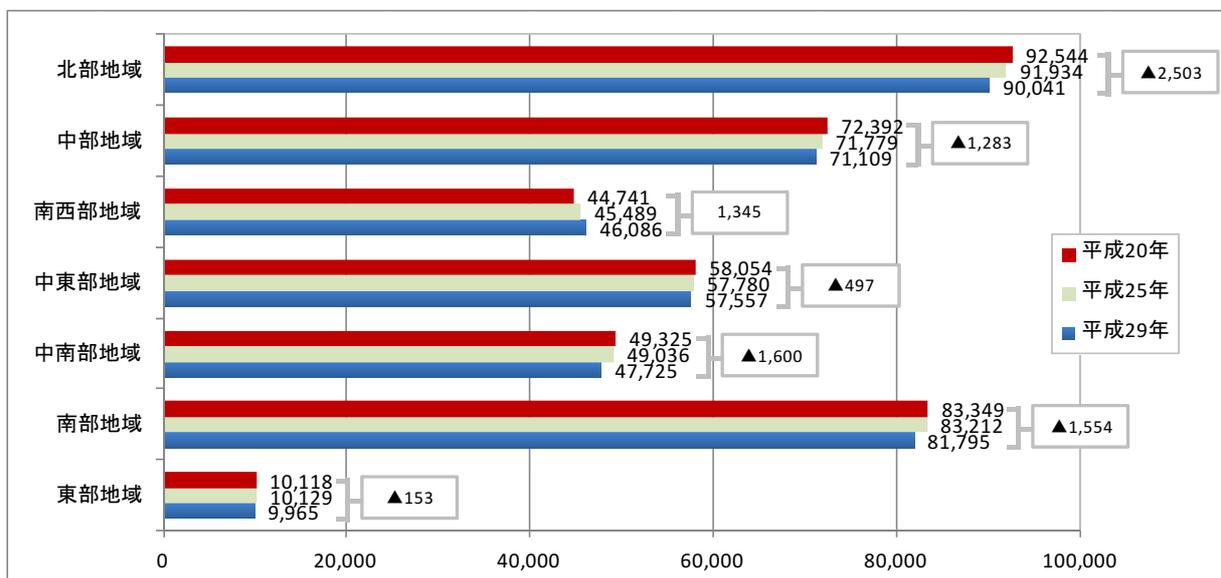


図 地域別人口の推移



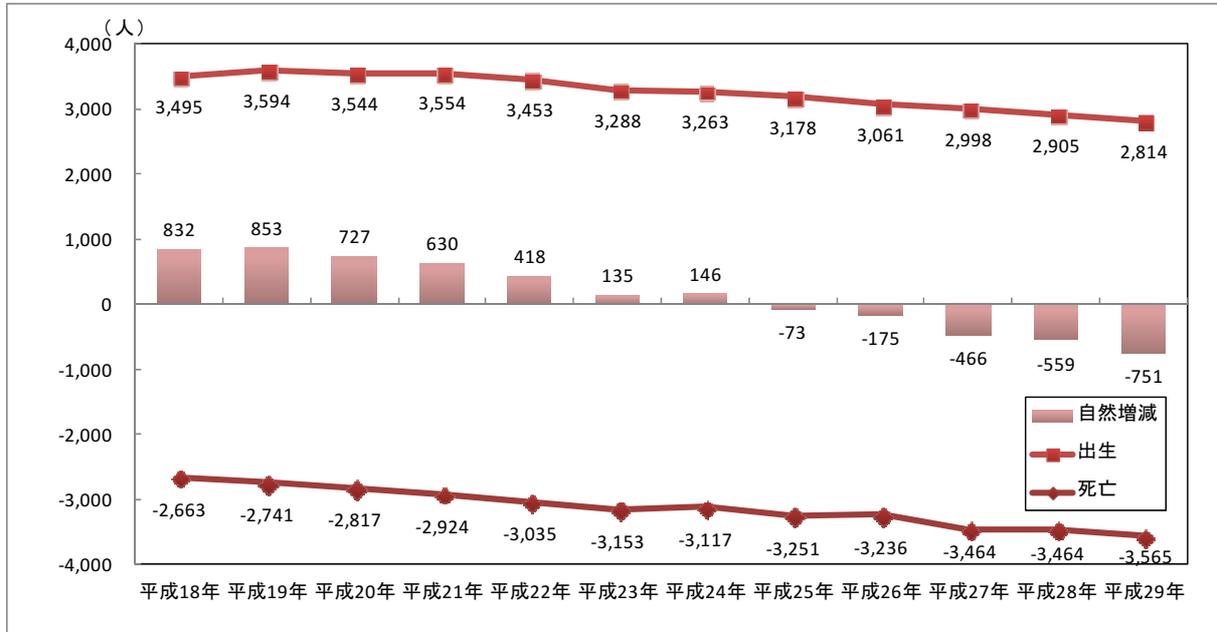
出典：枚方市 人口推計調査報告書

(3) 自然動態（出生・死亡）

①自然増減の推移

出生と死亡による自然増減については、平成24年までは出生数が死亡数を上回る自然増が続いていましたが、平成25年以降、死亡数が出生数を上回り、平成29年には751人の自然減となっています。

図 自然増減の推移

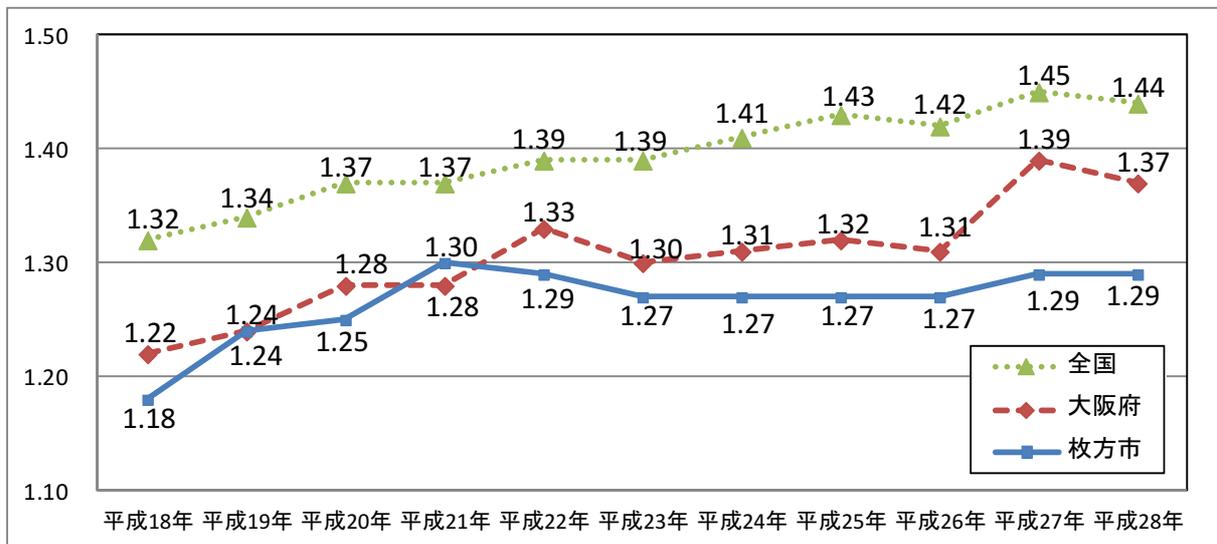


出典：枚方市統計書

②合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に産む子どもの数に相当）については、平成20年以降では平成21年をピークに減少傾向にあり、平成28年には1.29となっており、大阪府の1.37よりも0.08ポイント、全国の1.44よりも0.15ポイント低く、人口増減の分岐点である2.08を大きく下回っています。

図 合計特殊出生率の推移



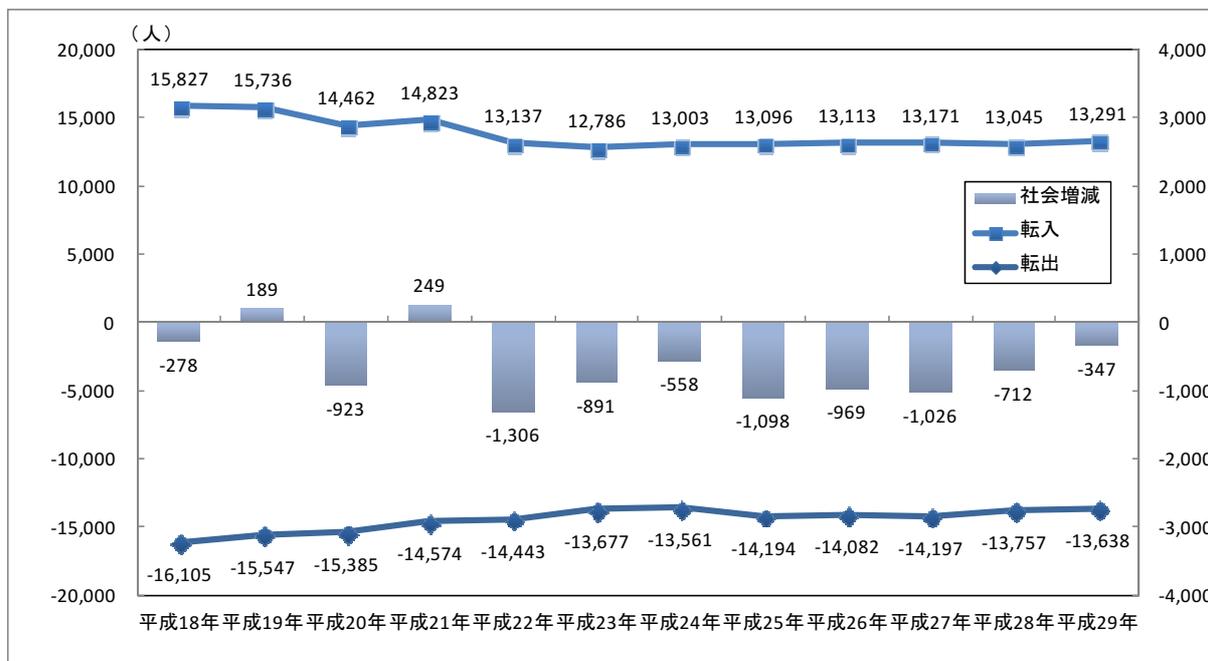
出典：枚方市作成

(4) 社会動態（転入・転出）

①社会増減の推移

転入と転出による社会増減については、転出数が転入数を上回る社会減の傾向が続いており、平成19年と平成21年に社会増となっているものの、平成22年から再び転出が超過し、平成29年では347人の社会減となっています。

図 社会増減の推移



出典：枚方市統計書

なお、社会増減については、市内の地区（町丁字）別の転出入の状況を見ると、年ごとに一部の地区で大きな転出超過又は転入超過となっている状況が見受けられます。要因としては、官公庁の宿舍・府営住宅の建て替え等に伴う転出や、新たに建設された民間マンションへの入居による転入などがあげられ、毎年社会増減に大きな影響を与えています。

表 町丁字別の転出入状況

<転出（転入）超過数の多い順で10位までを掲載>

平成29年

転入超過の地区

	地区名	転入	転出	転入者 - 転出者	町の人口 (H29.10月1日)	地域区分
1	藤阪東町1丁目	130	6	124	1,105	④中東部
2	高野道2丁目	147	82	65	2,760	①北部
3	香里ヶ丘10丁目	238	181	57	935	⑥南部
4	片鉾東町	317	266	51	1,494	②中部
5	禁野本町2丁目	323	276	47	2,032	②中部
6	甲斐田東町	74	29	45	576	②中部
7	東牧野町	91	48	43	2,363	①北部
8	楠葉中之芝2丁目	36	1	35	100	①北部
9	楠葉野田1丁目	100	66	34	1,978	①北部
10	船橋本町2丁目	79	48	31	1,098	①北部

転出超過の地区

	地区名	転入	転出	転入者 - 転出者	町の人口 (H29.10月1日)	地域区分
1	樋之上町	18	77	-59	1,358	①北部
2	牧野北町	88	134	-46	3,933	①北部
3	釈尊寺町	66	110	-44	2,548	⑥南部
4	三栗2丁目	47	86	-39	2,326	②中部
5	東香里元町	40	77	-37	2,173	⑥南部
6	養父西町	28	61	-33	1,140	①北部
7	村野南町	17	50	-33	2,198	⑤中南部
8	南中振2丁目	115	147	-32	3,566	⑥南部
9	藤阪西町	32	61	-29	2,140	④中東部
10	朝日丘町	43	72	-29	1,726	③南西部

平成21年～28年の累計

転入超過の地区

	地区名	転入	転出	転入者 - 転出者	町の人口 (H28.10月1日)	地域区分
1	上野2丁目	1,243	628	615	2,531	②中部
2	片鉾東町	1,486	1,062	424	1,496	②中部
3	藤阪東町1丁目	355	39	316	808	④中東部
4	高塚町	1,028	737	291	3,083	③南西部
5	磯島南町	637	371	266	1,507	②中部
6	香里ヶ丘3丁目	996	777	219	2,571	⑥南部
7	大垣内町3丁目	715	499	216	791	③南西部
8	藤阪天神町	268	69	199	944	④中東部
9	津田南町2丁目	229	41	188	677	⑤中南部
10	禁野本町2丁目	1,724	1,556	168	1,996	②中部

転出超過の地区

	地区名	転入	転出	転入者 - 転出者	町の人口 (H28.10月1日)	地域区分
1	北山1丁目	482	881	-399	3,907	④中東部
2	楠葉花園町	1,411	1,775	-364	3,490	①北部
3	御殿山南町	233	557	-324	645	②中部
4	南中振2丁目	865	1,134	-269	3,631	⑥南部
5	長尾谷町2丁目	456	718	-262	2,051	④中東部
6	牧野北町	588	849	-261	3,982	①北部
7	村野南町	311	563	-252	2,287	⑤中南部
8	東中振1丁目	822	1,005	-183	3,506	⑥南部
9	招提南町3丁目	450	630	-180	2,661	①北部
10	東香里元町	518	686	-168	2,200	⑥南部

※市内転居はこの表に含みません。

出典：枚方市統計書

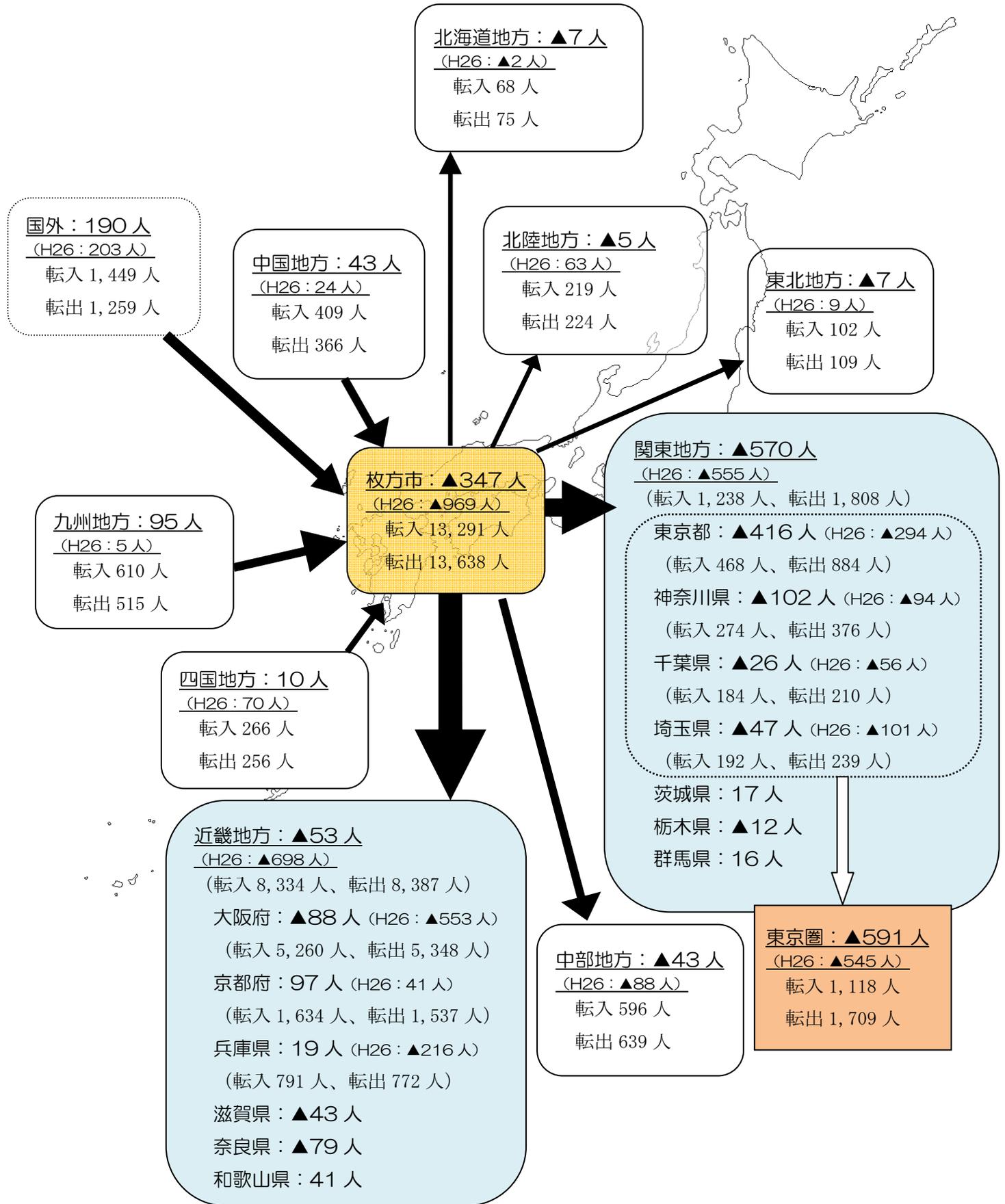
②転入元・転出先の状況

地方別で見た本市への転入元及び本市からの転出先の状況（平成29年）については、社会増減の規模が近畿地方で最も大きく（転入8,334人・転出8,387人）、次に、関東地方（転入1,238人・転出1,808人）となっており、特に、東京圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）で関東地方の9割以上を占めています。

また、社会増減についても、関東地方で570人と最も転出超過数が多く、特に東京圏だけでみると591人の転出超過となっており、次に、近畿地方で53人となっています。日本全体の人口減少の要因となっている東京一極集中の傾向が本市でも見受けられます。

一方、転入超過となっているのは、九州地方が95人と最も多く、次に、中国地方で43人、四国地方で10人となっています。そのほか、国外からは190人の転入超過となっています。

図 地方別の転入元・転出先の状況（平成 29 年）

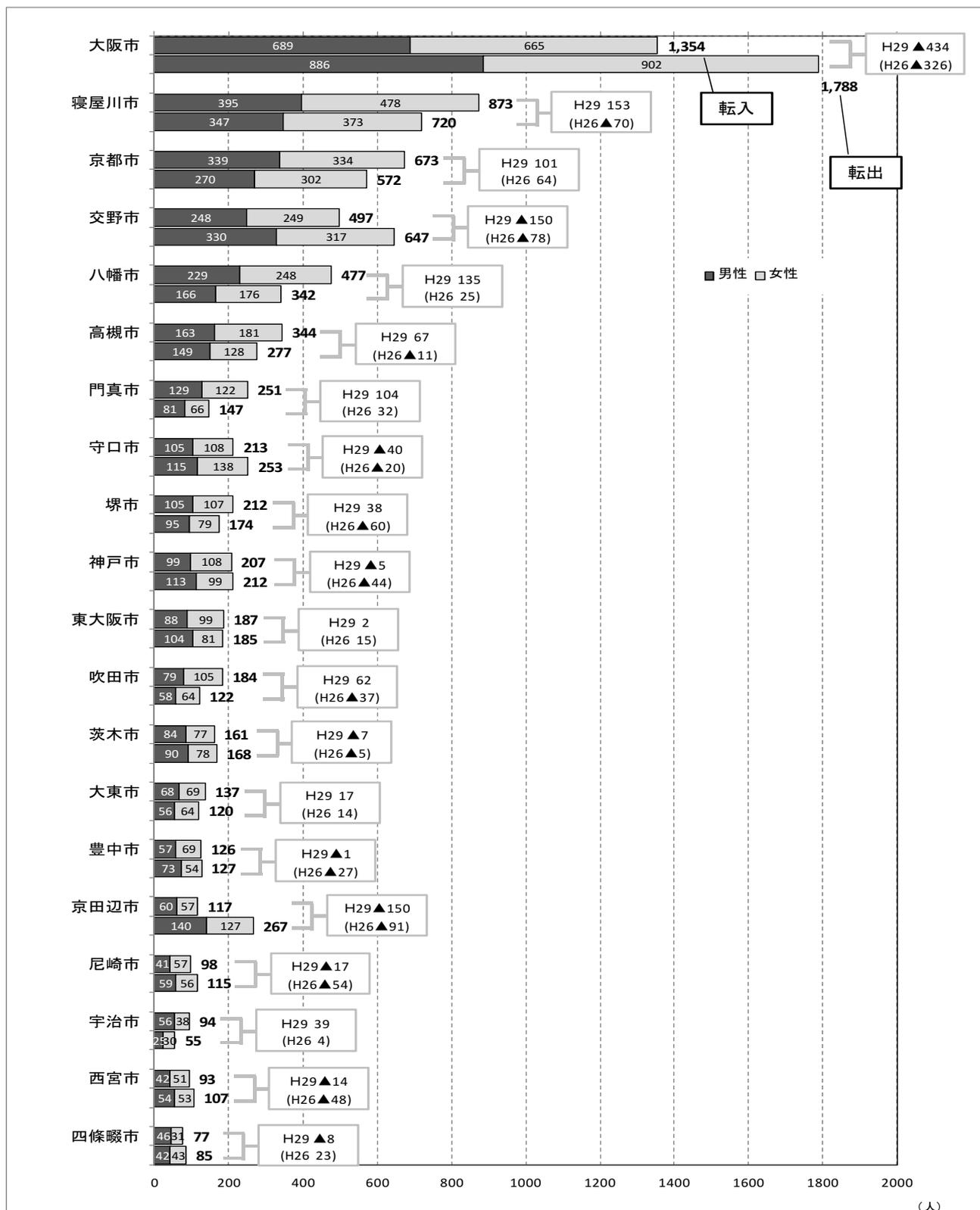


出典：枚方市統計書

また、本市との社会増減の規模が大きい大阪府、京都府、兵庫県各市町村との転入・転出の状況(平成29年)を見てみると、大阪市が最も社会増減の規模が大きく(転入1,354人・転出1,788人)、続いて、寝屋川市、京都市、交野市、八幡市の順となっています。特に、大阪市に対しては、転出超過の規模も最も大きく(434人)、年齢別に見ると、20歳代及び30歳代前半の転出数が全体の転出数の半数以上を占めています。

図 大阪府、京都府、兵庫県の市町村との転入元・転出先の状況(平成29年)

(社会増減の規模順で20位までを掲載)



出典：住民基本台帳人口より枚方市作成

表 近隣の市町村との転入元・転出先の状況（平成29年）
 <5歳階級別>（社会増減の規模順で5位までを掲載）

図 近隣の市町村との転入元・転入先の状況（5歳階級別）

	市町村		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数	(H26)
1	大阪市	転入	111	33	24	33	141	267	219	163	87	67	32	24	29	26	19	17	25	37	1,354	1,383
		転出	38	24	23	46	317	478	302	153	103	63	64	43	25	27	23	13	17	29	1,788	1,709
		増減	73	9	1	▲13	▲176	▲211	▲83	10	▲16	4	▲32	▲19	4	▲1	▲4	4	8	8	▲434	▲326
2	寝屋川市	転入	67	15	16	32	81	127	138	78	64	52	39	31	25	29	18	17	17	27	873	983
		転出	29	20	7	29	83	131	87	80	64	48	18	23	25	28	12	11	13	12	720	1,053
		増減	38	▲5	9	3	▲2	▲4	51	▲2	0	4	21	8	0	1	6	6	4	15	153	▲70
3	京都市	転入	40	11	5	22	84	161	116	63	38	30	22	17	19	10	5	5	10	15	673	676
		転出	19	7	7	15	111	128	98	50	41	17	18	10	14	10	5	6	10	6	572	612
		増減	21	4	▲2	7	▲27	33	18	13	▲3	13	4	7	5	0	0	▲1	0	9	101	64
4	交野市	転入	34	9	6	22	56	81	69	33	49	32	18	17	11	19	18	7	7	9	497	437
		転出	61	26	12	16	55	103	108	67	38	30	36	14	12	22	9	7	13	18	647	515
		増減	▲27	▲17	▲6	6	1	▲22	▲39	▲34	11	2	▲18	3	▲1	▲3	9	0	▲6	▲9	▲150	▲78
5	八幡市	転入	34	22	4	21	51	64	58	47	45	29	17	12	11	20	10	10	12	10	477	464
		転出	28	11	4	21	39	35	36	28	32	23	22	9	9	15	10	11	1	8	342	439
		増減	6	11	0	0	12	29	22	19	13	6	▲5	3	2	5	0	▲1	11	2	135	25

※ 図 枚方市の年齢別・5歳階級別の社会移動の状況

	枚方市		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数	世帯数
平成29年	転入	916	430	263	617	2,272	2,315	1,715	1,173	836	658	438	314	265	275	166	169	179	290	13,291	9,939	
	転出	703	441	233	415	2,631	2,531	1,874	1,215	885	663	483	350	264	274	172	141	145	218	13,638	10,775	
	増減	213	▲11	30	202	▲359	▲216	▲159	▲42	▲49	▲5	▲45	▲36	1	1	▲6	28	34	72	▲347	▲836	
平成26年	転入	891	405	308	615	2,225	2,194	1,746	1,240	887	613	432	306	259	253	210	141	153	235	13,113	9,816	
	転出	793	532	282	446	2,399	2,535	1,982	1,287	1,037	662	488	376	348	300	208	154	109	144	14,082	10,770	
	増減	98	▲127	26	169	▲174	▲341	▲236	▲47	▲150	▲49	▲56	▲70	▲89	▲47	2	▲13	44	91	▲969	▲954	

出典：住民基本台帳人口より枚方市作成 単位：人

図 枚方市の世帯別・5歳階級別の社会移動の状況

①単身世帯

枚方市		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	世帯数
平成29年	転入	23	10	16	429	2,083	1,798	968	582	391	334	257	206	178	169	110	104	119	234	8,011
	転出	12	12	17	256	2,434	2,158	1,266	730	497	406	298	228	144	160	110	92	97	165	9,082
	増減	11	▲ 2	▲ 1	173	▲ 351	▲ 360	▲ 298	▲ 148	▲ 106	▲ 72	▲ 41	▲ 22	34	9	0	12	22	69	▲ 1071
平成26年	転入	23	13	21	423	2,029	1,752	1,015	596	458	340	259	172	152	131	119	85	118	197	7,903
	転出	9	13	22	232	2,179	2,096	1,309	759	563	373	291	228	190	178	110	91	77	121	8,841
	増減	14	0	▲ 1	191	▲ 150	▲ 344	▲ 294	▲ 163	▲ 105	▲ 33	▲ 32	▲ 56	▲ 38	▲ 47	9	▲ 6	41	76	▲ 938

②夫婦のみ世帯

枚方市		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	世帯数
平成29年	転入	0	0	0	0	5	102	101	56	51	45	31	24	25	36	19	25	25	24	569
	転出	0	0	0	0	3	56	84	62	41	30	34	19	45	41	25	20	20	26	506
	増減	0	0	0	0	2	46	17	▲ 6	10	15	▲ 3	5	▲ 20	▲ 5	▲ 6	5	5	▲ 2	63
平成26年	転入	0	0	0	1	9	63	114	72	60	30	19	35	37	38	43	25	16	16	578
	転出	0	0	0	0	7	62	99	48	63	28	31	34	59	39	39	25	13	11	558
	増減	0	0	0	1	2	1	15	24	▲ 3	2	▲ 12	1	▲ 22	▲ 1	4	0	3	5	20

③夫婦子あり世帯

枚方市		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	世帯数
平成29年	転入	0	0	0	1	10	85	210	184	119	75	43	19	11	16	3	2	0	0	778
	転出	0	0	0	0	11	65	158	126	95	54	33	25	18	7	5	3	1	0	601
	増減	0	0	0	1	▲ 1	20	52	58	24	21	10	▲ 6	▲ 7	9	▲ 2	▲ 1	▲ 1	0	177
平成26年	転入	0	0	0	0	13	84	185	193	118	74	49	19	10	11	4	1	1	0	762
	転出	0	0	0	0	9	70	155	136	125	73	42	24	18	10	7	4	2	0	675
	増減	0	0	0	0	4	14	30	57	▲ 7	1	7	▲ 5	▲ 8	1	▲ 3	▲ 3	▲ 1	0	87

④その他(一人親世帯など)

枚方市		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	世帯数
平成29年	転入	1	3	1	5	27	52	93	98	97	104	38	18	11	12	1	4	8	8	581
	転出	0	1	7	4	26	49	105	102	113	85	40	16	4	17	7	6	1	3	586
	増減	1	2	▲ 6	1	1	3	▲ 12	▲ 4	▲ 16	19	▲ 2	2	7	▲ 5	▲ 6	▲ 2	7	5	▲ 5
平成26年	転入	3	6	10	4	38	62	92	105	87	62	47	17	10	17	2	3	4	4	573
	転出	1	5	4	7	42	74	111	121	118	89	44	25	18	16	7	7	4	3	696
	増減	2	1	6	▲ 3	▲ 4	▲ 12	▲ 19	▲ 16	▲ 31	▲ 27	3	▲ 8	▲ 8	1	▲ 5	▲ 4	0	1	▲ 123

2. 枚方市人口の将来展望

「1. 枚方市人口の現状」のとおり、本市の合計特殊出生率は、全国や大阪府よりも下回っており、死亡数が出生数を上回る自然減の状態です。また、社会動態についても、主に東京圏や大阪市内などの都市圏への人口流出により、転出数が転入数を上回る社会減の状態が続いています。今後、これらの傾向に歯止めをかけるための効果的な施策を実施することを前提に、国や大阪府の人口ビジョンを踏まえ、本市の出生率及び社会移動を次のとおり設定し、将来人口を展望します。

【自然増減・社会増減についての条件】

自然増減について

- 「国の長期ビジョン」では、合計特殊出生率の仮定値を2020（平成32）年に1.6、2030（平成42）年に1.8、2040（平成52）年に2.07としています。
- 「大阪府人口ビジョン（作成中）」では、合計特殊出生率を国の示す出生率のケース、及び、大阪府と国全体の出生率の差を加味したケースの2とおりとしています。
- これらを踏まえて、本市における合計特殊出生率についても、以下のとおり、大阪府と同様に2つのケースを活用します。

	2020（平成32）年	2030（平成42）年	2040（平成52）年
国の示す出生率	1.6	1.8	2.07
大阪府の示す出生率	1.49	1.68	1.93

【参考】合計特殊出生率（2013（平成25）年ベース）：全国1.43、大阪府1.32、枚方市1.27

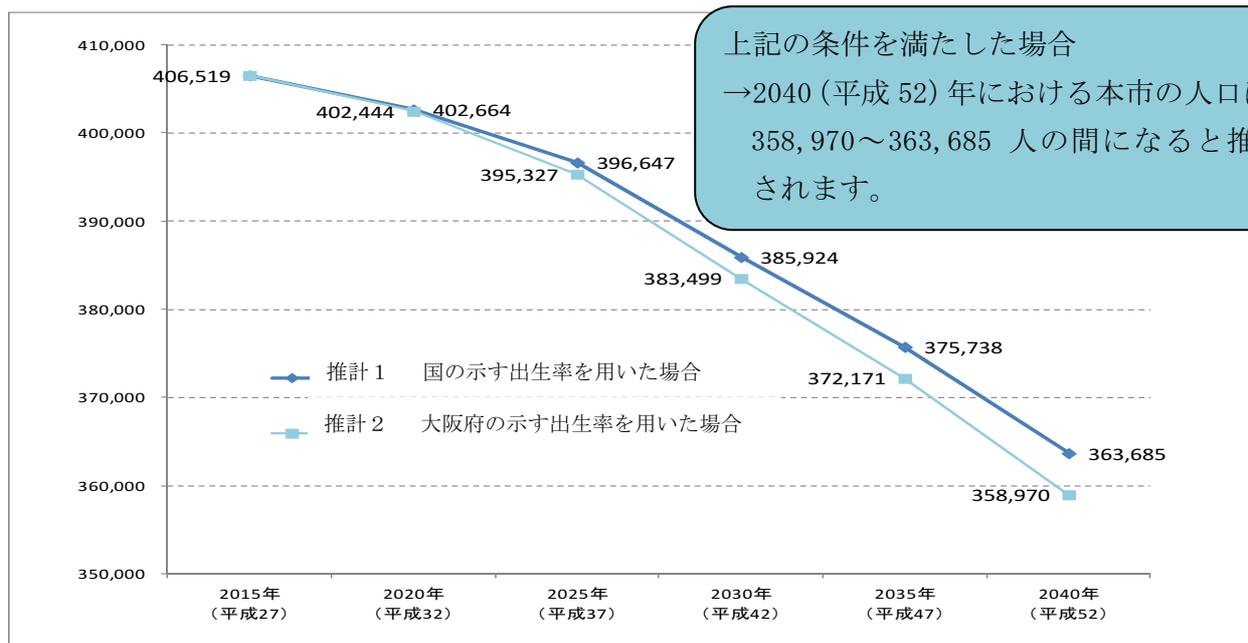
社会増減について

- 本市では2020（平成32）年に社会増減の差がゼロになるとします。

【参考】本市の2014（平成26年）中の社会移動は969人の転出超過

本市人口の将来展望

国と大阪府が示す出生率の2つのケースで推計



※人口の将来展望と実績について

	H27	H28	H29
実績	406,133	404,963	403,989
推計1	406,519	405,794	405,069
推計2	406,519	405,794	405,069
差引	-386	-831	-1,080

